

第五節 柳津の靈境談義

(一) 柳津の靈場商売

柳津は靈場商売として制限を加えられ、市場を開くことも出来ず御免之品以外には商売を禁じられていた。駅所文書によると、文化八年卯八月、商売御免の品の事として左の十二品目を商売することが出来た。即ち、

「飴・菓子・草履草鞋・明松・元結・伽羅油・きせる・煙草入・手拭切・鼻紙・刻たばこ・ほくち火打石」

であった。柳津の人たちは、靈場としての誇りを持っていたため、牛や生卵さえ食べない精進をしていたから、商売の品目をこれ以上に要望もしなかったようである。このお菓子の中には、靈場の土産菓子として、名物粟饅頭は江戸時代からあったようである。古川古松軒の巡見記の中にも、

「柳津に着く、村の中は菜の花の咲きたる如く」

と名物粟饅頭のあることを驚いて記している。村中にどの位の菓子屋があったものか、その戸数などは分明しない。

この令条の頃は、文化のはじめから商売の制度もつてのほかみだけ、小林にも肴・小間物・着物太物等の商いをする人が出て、牛沢組塔寺などは市場のある坂下よりも繁昌したと認めてある。こうした時であったので、文化八年に御令条の達しがあり、取締を厳重に

した。しかし野沢組・金山谷組・滝谷組・高田組のうちで、柳津に近い村々では、柳津の靈場商売品目だけでは、実生活に不十分であり、不便であった。わざわざ坂下市場にまで出なければ、生活必需品は求めることができなかったのである。

そのため柳津において、生活必需物資の品替（物々交換）や商売をさせてほしいと要望して、願書を出している。

柳津村に而諸商売相願候節

故障申立商売不御付事

乍恐以書付奉願候

先年市場之外ハ諸問屋并升目秤目は勿論、凡而商売之見世店御停止被御付候処当村之儀ハ駅所並之外袋米御用捨被成下置候ニ付問屋四軒相立罷在候、前々は市場同様何品に不限諸商品商品仕候所敷敷御差留後は相勢相衰且又自他邦參詣之者も追々薄相成申候。元來当村之儀ハ御田地不足にて耕作一二反の輕宮（やま）の者ハ十ヶ一も無之候（中略）

一、伊勢・高野・日光・善光寺を始め諸国何れの靈場下にてても其国の産物は勿論凡而見世店賑々敷相飾り商売仕候故、參詣之旅人も専ら靈場の場より相求候品にて帰国土産の様々覚相覺候間其国其地の潤益不少候に付、自然と神仏の光輝にも相成様存候（中略）柳津村にても塗物始品々調儀仕度旨今も相望之者不少候得は商売可仕様之奉意に候。

縁のある国指定天然記念物の霊魚である。

ここに目をつけた香月堂主は、うぐいの魚形に「良アン」を充満させた最中を創案した。これを求めようと、長蛇の列をなすことが何回となくある程の銘菓といってよい。はやく商標権もとっているという。

更に一王町山中屋発売の聖牛最中がある。

虚空蔵尊を守り本尊と信仰する丑寅の丑に因んだものである。これも好評を博し信心者が参詣土産として求めて帰る姿が多い。

そのほか近頃に「茶まんじゅう」も柳津名物菓子に数えられてきた。

お茶を原料の一部として用い、色も実にも上品なもので、このいろいろな名菓のすきこのみはあるが、善男善女の土産物として今後はますます発展していくことであろう。

(三) 柳津の桐下駄

わが町は会津桐成育優良地の一部で、非常に良桐材が産出する。

会津桐の名は中央にもその声価が高く、需要もまた多いのである。

桐はその土地が水はけがよくて、風のみり吹かない地が適地である。そのためこうした立地条件を持つ柳津町・三島町・金山町は特に有名で、その他耶麻郡西会津町下谷地区・奥川地区を会津の五大桐産地という。

会津盆地にはこうした立地条件を満たすことができないので、良



桐下駄の輪積み

桐は見あたらない。そのため会津西部桐材業組合は、昭和十一年九月に、柳津円蔵寺境内に桐樹供養を建碑して、桐樹の精霊魂を供用している。

桐樹の用法は、古くは下駄・足駄・箆筒・小函・硯箱などに使われ、特に箆は桐板でなければあの妙音の響が出ないという。

箆の音の優雅さは女の美しい和服とよく調和するのでよく弾かれ

た。実に純日本の印象を与える。

「豪雪に耐えし会津桐の琴づくり

琴と女は撓うと細き眸」

と詠んだ歌もある。

近頃は桐を薄く長く剥いで、雑木下駄に貼りつけて桐下駄とみせ箆筒・小函なども桐を張ったベニヤ板で製造し、そのベニヤ板の材料として多量に生産されている。然し柾目の桐下駄の軽く履き心地よく、殊に女下駄などは愛用されているのである。

そこでわが町の下駄製造について記す。

いつ頃から下駄・足駄を作っていたかははっきりしない。古い時代のころは、各家毎に自家用として製造をしていた、という。職業の分類が判然しない自給自足時代のためで、漸次職業の専門化と量産を必要とする近代になると、下駄製造業者が出てきて、機械化となった。手工業時代を考えると実に製品の美しさも量産も隔世の感がある。

製品は地方への販売もあるが、多量の販売地は、東京・大阪・京都方面である。

下駄製造の順序と用具は左の通りである。

- ① 桐樹は少くとも十三年以上経過したもので、もちろんそれより古く太いのは更によく、伐採は九月彼岸から翌年三月彼岸までの間に伐り倒す。寒中伐採するのは最も好ましいが、会津では雪と寒さのため、必ずしも伐めることは困難である。

- ② 伐採した桐は工場に運び、適

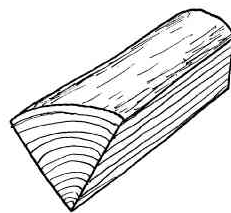
当に製材し、角取りか、扇取りとする。角材は厚さ十四センチメートル、横二十四センチメートル、縦十四センチメートル、扇取りもその横二十四センチメートルとする。

扇取りは柾目の整美されたものとき、角取りは柾目は勿論であるが、板目のときも用いるのである。

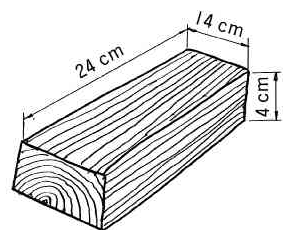
- ③ 角取りしたものは直ちに線引きを行って、それを二つの同形のものに、糸鋸でひきわる。柾目の揃うものはこれで一足とするが、目が揃わないときは、他のものと組合せて一足とする。

- ④ ここまで仕上げて約「六分仕上げ」といい、これを輪積をする。そしておよそ三ヶ月近く外に積み、天日と雨とで曝す。このとき、下駄の場合は六〇〇本（三〇〇足）で一輪とする。こうすると乾燥と色彩が自然に出てくる。あまり乾燥させると割れる心配があるので、適当と思うとき屋内へ運ぶ。

- ⑤ 乾燥した下駄は、鼻廻機にかけて、角をとりて丸味を持たせる。このとき大人の下駄で長さ二四センチメートル、幅一二セ



扇 取 り



角 取 り

ンチメートル位に仕上げ上げる。そして前歯の前方を更に削り、歩くときに便利なようにする。

⑥ 仕上げ鉋により、素地を平滑にする。このとき以前は手鉋を使っていたが、現在では電力鉋を用い、最後に紙やすり器にかけて磨きあげると美しくなる。

機械鉋のないときは、この仕上げを「アゴサライ」と称して丁寧に仕上げた。

⑦ こうして形が完成すると、「穴アケ器」で一度に三個の穴をあける。こうして全く下駄の形態は完成するのである。

⑧ 次は磨きである。「トノコ」を水に溶いて下駄の表と横前後に塗り、「ウチクリ」で磨き、更に蠟を塗ってまた「ウチクリ」で磨き、仕上げとして、瀬戸の磨具で更に磨くと、美しい光沢ができて、一層品格が出てくる。

⑨ 更に裏の歯に「ダボ」を二本か三本を打つ、これは歯が減らないためと、商品として見栄があるためである。

こうして、わが町の下駄製造高は年々その生産を挙げている。このほか、桐板・桐ベニヤ板・琴板としても多量に生産している

町の生産者は、

大平町

荒木 喜八郎 桐板及桐材

大平町

金子 平三郎 桐下駄・桐材・琴板

大平町

黄川田 幸雄 桐材

出倉

牧野 伸一郎

牧野 順次郎 桐下駄・桐材

の各氏である。

近頃、日本再発見傾向によって着物がブームをよんでいる。和服と下駄・（足駄）は、最も調和のとれた美しさである。桐下駄の軽さ、歩くときの響きが脳に伝わらないという長所がある。

また湿気をよばぬとか、虫がつかないとかの美点をもっているの
で、調度品としても今後大いに利用価値が高くなることであろう。

第二章 柳津町の記念碑総基

記念碑に寄せて

記念碑は町の歴史であり足跡である。そこには、先人の労作から生れた文化が芽生えていることに気がついて来るものである。そうした意味において、これは町の文化財でもある。

道路を改修したもの、教育の徳を讃美したもの、あるいは文学にあるいは開拓にこの郷土に対する一念がありありと刻み込まれている。

こうした意味において、編集も科学的な分類ではなく雑然と並べたものではあるが、取敢えず柳津町の記念碑が路傍の草むらに土ぼこりになっているのを洗い出して、全体的にまとめたのがこの記念碑総基である。

記念碑に向って一字一字書きとめて見ると、そこには汗のじむ先人の偉業が、現代の我々に訴えて来るものを感じないではいられない。

荒地を開拓し、用水路を開きくするに夜間はたい松を明かして傾斜を測定した労苦……、私財を投じて峻坂を切り開いた徳を慕って

建碑した世話人の心……、自然を愛して全域に植桜した人々……、十七文字で無限の美を追求した句碑、どれ一つをとっても我が柳津の人々の「こころ」を刻み込まないものはない。この刻まれた「いしぶみ」こそ柳津町の永遠に生きる文化財である。

碑誌一覽表

17	記功碑	竜蔵庵
16	記念碑（耕地整理）	竜蔵庵
15	頌徳碑	竜蔵庵
14	招魂碑	軽井沢銀山
13	軽井沢銀山碑	軽井沢銀山
12	桜植樹記念碑	諏訪神社境内
11	飯深目黒先生墓	東京都、月桂寺
10	坂上家碑文	岩坂町
9	柳津発電所慰霊塔	柳津発電所
8	柳津発電所記念碑	柳津発電所
7	忠魂碑・慰霊碑	円蔵寺境内
6	従軍勲功碑	円蔵寺境内
5	佐藤蘭斎翁之碑	円蔵寺境内
4	長峰弘運君の碑	円蔵寺境内
3	植樹櫻碑	円蔵寺境内
2	桐樹供養塔	円蔵寺境内
1	頼三樹三郎の詩碑	円蔵寺境内

40	芭蕉句碑	奥之院	巴蔵寺境内
39	忠穂句碑	奥之院	奥之院
38	杜月句碑	瑞光寺公園	瑞光寺公園
37	杏所句碑	巴蔵寺境内	巴蔵寺境内
36	石川冠者有光墓標	只見、黒谷	只見、黒谷
35	岐堤増築記念碑	藤分校	藤分校
34	耕地整理記念碑	下藤	下藤
33	幸田親義碑	姥沢銅山	姥沢銅山
32	清姫橋讚歌	諏訪町	諏訪町
31	伊勢參宮記念碑	瑞光寺公園	瑞光寺公園
30	奥之院石階改修記念碑	奥之院	奥之院
29	おぼ抱き観音由来碑	早坂峠	早坂峠
28	水難除地蔵尊	諏訪町	諏訪町
27	農業改良記念碑	根柄巻	根柄巻
26	学童供養塔	塩野	塩野
25	水道新設記念碑	野老沢	野老沢
24	上田土地改良事業記念碑	安久津、上田	安久津、上田
23	耕地整理記念碑	石神、郷戸分校前	石神、郷戸分校前
22	華蔵寺再建記念碑	石神、華蔵寺	石神、華蔵寺
21	入山溜池記念碑	郷戸入山	郷戸入山
20	特志修路記念碑	藤新道	藤新道
19	頌徳碑	藤分校前	藤分校前
18	寿松院碑	猪鼻、角田孫市氏宅	猪鼻、角田孫市氏宅
62	一ノ瀬長四郎信利の碑	麻生	麻生
61	陸軍曹長斎藤力雄招魂碑外一	野老沢	野老沢
60	松巖山慶福寺無縁之碑	軽井沢	軽井沢
59	西山分校之碑	砂子原	砂子原
58	平和塔	砂子原	砂子原
57	戦没者招魂碑	牧沢	牧沢
56	弥彦神社改築碑	久保田	久保田
55	遷宮記念碑	大成沢	大成沢
54	圃場整備記念碑	大成沢	大成沢
53	博勝公園顕彰碑	大成沢	大成沢
52	鈴木勝先生之碑	大成沢	大成沢
51	改田之碑	芋小屋	芋小屋
50	社殿改築碑	砂子原	砂子原
49	彰徳碑	砂子原	砂子原
48	西山村之碑	砂子原	砂子原
47	陸軍曹長猪俣一之墓	八坂野	八坂野
46	笠間恵翁銅像	町役場前	町役場前
45	柳津うぐひ棲息地	魚淵	魚淵
44	忠僕半助之墓	月光寺墓地	月光寺墓地
43	人形塚	巴蔵寺境内	巴蔵寺境内
42	教山松尾庵主の墓	猪鼻	猪鼻
41	大竹作摩翁銅像	つきみが丘	つきみが丘

記念碑の分布図

